新学習指導要領の実施に向けた準備が本格化する中、学校現場は様々な課題に直面することが予測される。本コーナーでは、実践事例や有識者インタビューなどを通じて、現場の疑問や課題を解決し、自校の実践につなげる情報を提供する。

テーマ

グランドデザインから考える「総合的な探究の時間」の設計

はじめに

「総合的な探究の時間」の5つの課題に向き合う

2019年度から先行実施が始まった「総合的な探究の時間」。現場の教師に、その課題や取り組めていないことは何かを聞いた時、課題として挙げられるのが、次の5つだ。

❶教師により、指導ノウハウや指導に対する意識の差が大きい
❷特定の教師に負荷が集中しており、学校全体に指導が定着しにくい
❸評価の方法が分からない
❹学習意欲への効果が見えづらい
❺汎用的な資質・能力の育成につながっていない

こうした課題に向き合い、「総合的な探究の時間」の設計とその改善に取り組んできたのが、岡山県立林野高校だ。今回は、右の5つの課題を大きく「学校全体の取り組みにする方策」「生徒の意欲喚起と資質・能力の育成」の2つの課題とした上で、同校が課題をどのように乗り越えていったのかをひもといていく。また、22年度からの指導要録の変更に伴う観点別学習状況評価の導入に向けた同校の構想もリポートする。

実践事例

学びの意義を捉え直して、学校教育目標とひもづける

岡山県立林野高校

岡山県立林野高校では、2016年度から、カリキュラム・マネジメントの視点で教育活動の改善に取り組んできた。学校全体で「育てたい生徒像」を丁寧に語り合い、教育活動の軸となる生徒理解を深めながら、資質・能力ベースで各教科の教育課程の見直しを行った。20年積み重ねた伝統のある同校の「総合的な探究の時間」は、教育活動全体の中にどのように位置づけられ、展開されているのだろうか。

Q1 どうしたら、「総合的な探究の時間」が、学校全体の取り組みになり、一人ひとりの教師の負荷を最小限にできるか？

A1 「総合的な探究の時間」の認識を、活動ベースから資質・能力ベースへ転換することが大切

瀬島先生　本校では2016年度、カリキュラム・マネジメントの視点で、すべての活動を学校教育目標に落とし込み始めました。本校は、約十年前から地域課題研究に取り組み、協働学習にも力を入れてきました。部活動も盛んです。教科の力はもちろん、生徒の様々な力を伸ばせる学校だと自負がありました。

しかし、「これが目指す生徒像だ」と教師が同じ言葉で語れたかと言えば、共通の認識、指標が不足していました。また、近年は、地域の中学生の数が減るなど、学校の存続に対

＊プロフィールは2020年3月時点のものです。

校長
竹内成長
たけうち・しげのぶ
教職歴33年。同校に赴任して1年目。

指導教諭
瀬島美穂
せじま・みほ
教職歴30年。同校に赴任して10年目。統括課長。理科。

2学年主任
吉川英明
きっかわ・ひであき
教職歴15年。同校に赴任して3年目。地歴公民科。

「総合的な探究の時間」主担当
佐堂幸代
さどう・ゆきよ
教職歴6年。同校に赴任して3年目。英語科。

岡山県立林野高校

◎20年の伝統がある「総合的な探究の時間」は、全教師がかかわり、連携して推進する。生徒は1人1台の「Chrome book」を所持し「Classi」を導入。情報活用能力や表現力の向上、教師の負担軽減にもつなげている。
◎設立　1908（明治41）年
◎形態　全日制／普通科／共学
◎生徒数　1学年約140人
◎2019年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、静岡大、鳥取大、岡山大、高知大、北九州市立大などに15人が合格。私立大は、立命館大、関西大、近畿大などに延べ75人が合格。
◎URL　http://www.hayasino.okayama-c.ed.jp/

して教職員が強く危機感を抱いた時期でした。学校の強みは何か、求められる学校であるために何を目指すべきかを、すべての教職員が同じ言葉で語れるようになるため、どんな生徒を育てたいかを全教職員で話し合って整理し、足並みをそろえていきました。それによって、「総合的な探究の時間」だけでなく、全教科が、資質・能力をベースにした活動になりました。

図1　林野高校の「総合的な探究の時間」

学校教育目標
校訓　「すべては光る　個性の輝き」

生徒が分かりやすい言葉

育てたい生徒像
- 知識や技能を身に付け、活用することができる。
- 自己や他者を認め、協働することができる。
- 見通しをもって社会や自然とかかわることができる。
- 多様な中から新たな価値を見いだすことができる。

資質・能力3つの柱にそって整理

「総合的な探究の時間」全体計画

目標を実現するのにふさわしい探究課題の設定

SDGs（持続可能な開発目標）の中から選び取ったテーマについて、地域社会に生きる自分自身の、身近な問題としてそれを捉え直す。さらに、同様の課題意識を持つ生徒が年次を超えて協働し、それぞれの持つ知識を統合／転移しながら、様々な立場の人々とともに持続可能な社会の実現を目指す。

◎課題設定の流れ
STEP1　探究活動に必要な知識・技能の習得
STEP2　フィールドワークを通した思考の深化
STEP3　課題解決策の発表とブラッシュアップ
STEP4　次年度の課題の確認と自己の学びの振り返り

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

知識及び技能
- 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実際的に分析することができる。
- 課題発見・課題解決型の活動を通して、方法論としての探究的な学習の仕方や進め方、PDCAサイクルを学び、現在及び将来の学習や生活に生かすことができる。

思考力、判断力、表現力等
- 異なる意見や他者の考えを認め、特徴を生かしあい、協働して課題を解決することができる。
- 自分の考えを適切に発信し、伝達しようとすることができる。

学びに向かう力、人間性等
- 自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組むことができる。
- 自己の興味・関心を引き出し、深めようとすることができる。
- 課題の解決に向けて、多様な社会活動に当事者意識を持って参画することができる。
- 自己の将来について具体的に考え、夢や希望を持ち、その実現に向けて努力することができる
- 魅力ある地域づくりに貢献しようとする

＊学校資料を基に編集部で作成。

本校は、志望も学力も多様な生徒がいる学校です。授業は一方的な教え込みだけでは成立しません。各授業でどんな資質・能力を育成するのか、そこが明確になると我々の授業は変わり、生徒の姿勢も変わります。育てたい生徒像を全教師で共有したからこそ、授業のあり方、そして「総合的な探究の時間」のあり方も決まり、連携が強まったと思います。

竹内校長　本校には、「学校の教育活動はみんなで」という伝統が教職員の中に育まれています。「総合的な探究の時間」は、全校生徒を5つのテーマごとに縦割りにして、全教師で指導にあたります。「みんなでやる」という学校の教師文化があるから、育てたい資質・能力も全教職員で話すことができたのだと思います。「自分は専門教科や部活動だけをやればよく、『総合的な探究の時間』は関係ない」という考えにならず、結果として一人ひとりの負担を削減することにつながっています。協働的な教職員の風土づくりも、「総合的な探究の時間」を全校で進める上で、管理職の重要なテーマになると思います。

Q2 どうしたら、生徒の学習意欲を高め、資質・能力の育成につなげることができるか？

A2 生徒の成長を後押しできるような、多面的評価を充実させることが重要

佐堂先生　毎時間、活動内容だけではなく、何を学び、何が身についたのかをルーブリックで振り返らせ、成長が見える積み上げ型の評価をしてきました。教師は振り返りにコメントを丁寧に書き込み、生徒の弱いところを伸ばすヒントを与えています。20年度は、観点別学習状況評価の実施に向け、これまでの活動・ルーブリックを、資質・能力の3つの柱に沿って整理して、評価項目（図2）と年間指導・評価計画（図3）を作成しました。生徒は活動の途中で大きく変化しますから、ステップごとに多面的に生徒を励まし、一人ひとりの成長を支援していきたいです。

吉川先生　教育目標にひもづけ、資質・能力の3つの柱で整理したことで、生徒が何ができるようになるかを第一に考えられるようになりました。おかげで、「総合的な探究の時間」は、生徒主体の活動であると教師間で共通認識が持てています。評価項目は教師・生徒が共通して持ち、活用していくものになります。実際、教師が主導していく場面は近年大きく減り、生徒には「自ら学びに向かわないといけない」という意識が高まっています。教師の「こうなってほしい」という思いと、生徒の「こうなりたい」という思いでゴールを設定し、その成長を適切に評価していきたいです。だからこそ、どのように資質・能力が育まれているかを把握できる観点別学習状況評価の充実が求められていると思います。

図2　20年度「総合的な探究の時間」評価項目案（検討中・抜粋）

MDP活動を通してつけたい力・目指す姿		枠に意識して活動するステップ	評価する観点
批判力	**批判的に考える力**		思考力・判断力・表現力
	④現状を分析し、目的や課題を明らかにできる	1・3	
	⑤課題に対する複数の解決方法から、最も善いものを検討することができる	2・3・4	
	⑥既存の発想に固執せず、さらなる発展や新しい解決方法を考えようとすることができる	2・3・4	
計画力	**学びの姿勢作り**		学びに向かう力・人間性等
	⑦必要な情報や資料を得るための手段を考え、行動することができる	1・2・3・4	
	⑧活動を振り返り、今後の見通しを立てることができる	1・2・3・4	

「総合的な探究の時間」で生徒に身につけさせたい力・姿を評価項目として明確化している。評価項目は生徒と共有し、生徒は活動の度に成長が見える積み上げ式のグラフに記録していく。
＊学校資料を基に編集部で作成。

図3　20年度「総合的な探究の時間」年間指導・評価計画（検討中・抜粋）

		4月	5月	6月	7月
		ステップ1	ステップ2		
探究プロセス		課題設定	情報収集 整理・分析	情報収集・整理 分析・まとめ	情報収集 整理・分析
知識・技能		考えるための技法、言語能力、情報活用能力など			
思考力・判断力・表現力		④	⑤ ⑥ ⑨ ⑩		
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	⑦ ⑧ ⑮ ⑰ ⑳	⑦ ⑧ ⑮ ⑱ ⑲ ⑳		
	上記以外	⑫ ⑬	⑪ ⑬		

「総合的な探究の時間」の活動を資質・能力ベースで整理していたが、そこで育んだ資質・能力を適正に評価する仕組みをつくるために、関西大学の黒上晴夫教授を招いた全教師参加の校内研修を実施した。
＊学校資料を基に編集部で作成。

より詳しい内容は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！

事例・解説　林野高校の指導事例・指導ツールを掲載

動画解説　関西大学・黒上晴夫教授による「探究の在り方」動画解説

—疑問や課題を解決！実践につながる！—
新課程レポート
ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ＞入試改革／新課程 からアクセス

4月中旬 リリース予定

—疑問や課題を解決！実践につながる！—

VIEW21 新課程レポート PRESENTS

ベネッセ教育情報センター

7/3 開催

Webセミナーのご案内

生徒の前向きな学びを引き出す指導デザイン

～新課程で求められる資質・能力を育成する指導と多面的評価～

新課程に向けて検討を進めていく中で、
指導や評価を具体的にどのようにデザインしていけばよいのかについて
お悩みの声を多くお伺いします。
今回の Web セミナーでは、そのようなお悩みに応えるべく、
新課程の情報整理や実践事例発表を予定しております。ぜひご参加ください。

◎開催日時 2020年7月3日（金） 14:30～17:00（予定）

◎形式 Webセミナー（ライブ配信）

＊新課程を見据えた指導・評価について、学校全体で推進していくための工夫を、先進事例校にご発表いただきます。各学校にて、管理職、教務ご担当先生、進路ご担当先生など、複数の先生方で一緒にご参加いただけましたら幸いです。

◎参加費 無料

◎詳細・申し込み方法等

5月以降に改めてご案内いたします

お問合せ先

（株）ベネッセコーポレーション 学校カンパニー　教育支援企画部　教育情報センター

TEL 0120-350-455 お客様サービスセンター

（受付時間／月～金 8:00 ～ 18:00　土 8:00 ～ 17:00　／祝日および年末・年始を除く）